

ALPS出口サンプルタンク（フランジ型含む）における 信頼性向上対策

2021/6/24

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 信頼性向上対策としての連絡配管設置について

- 既設・増設・高性能の各ALPSで処理した水は、それぞれ専用のサンプルタンクに一時貯留する系統構成となっている。これまでは、水処理を優先する観点から既設ALPSの稼働が必要となり、既設ALPSサンプルタンクについては、フランジ型のまま使用を継続してきた。
- 今回、既設ALPSサンプルタンク（フランジ型）の運用における信頼性を向上させることを目的に既設ALPSから増設・高性能ALPSのサンプルタンク（溶接型）に処理した水を送ることができる『連絡配管』を設置する。
- 連絡配管設置後は、溶接型のサンプルタンクを優先的に使用することとする。
- 2022年夏頃を目途に運用を開始する。

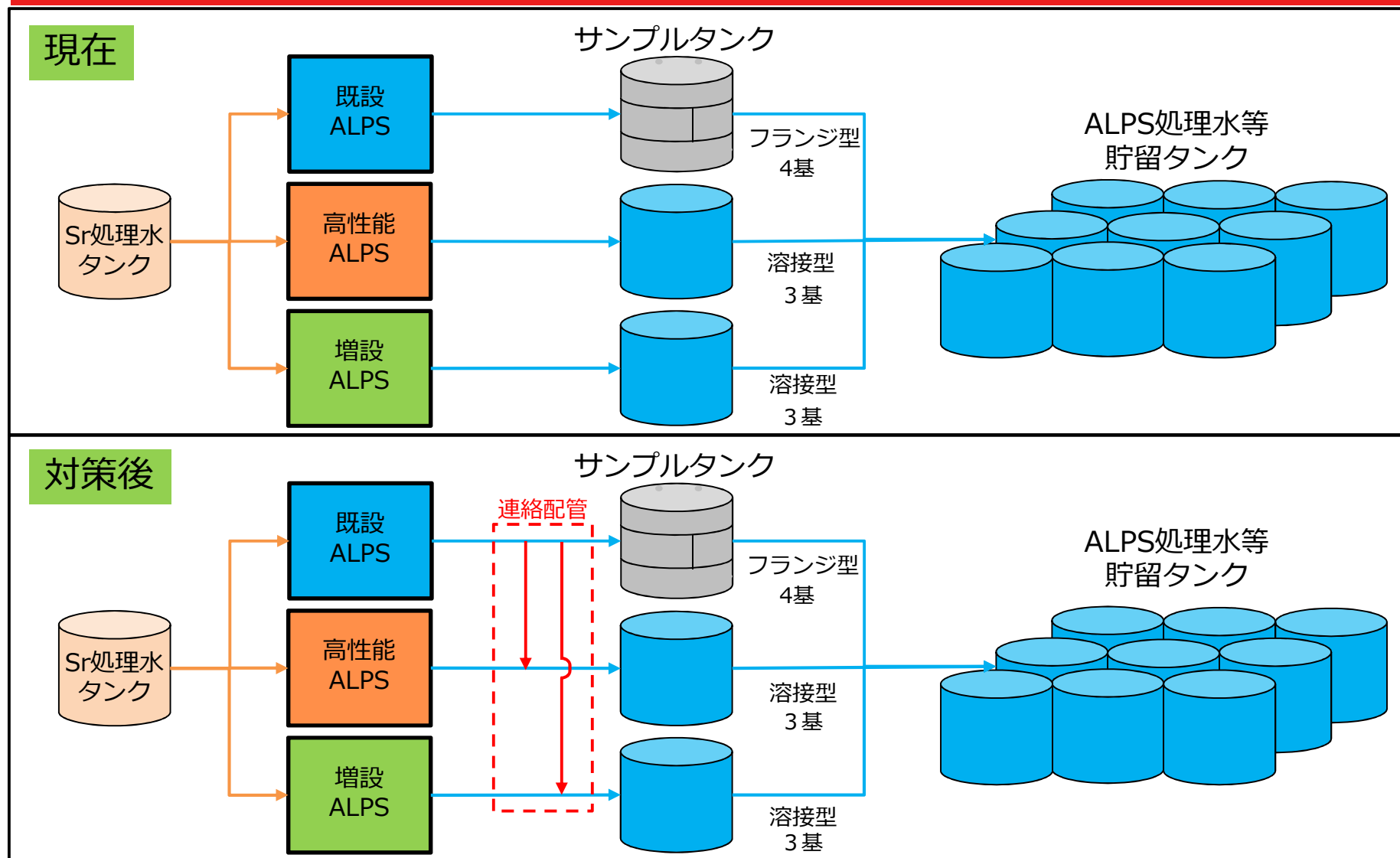
【既設ALPSサンプルタンクの運用方針】

- 既設ALPSサンプルタンク（フランジ型）は、連絡配管設置完了後、水抜き・点検、必要に応じ補修等を実施。
- 既設・増設・高性能ALPS同時運転を実施する場合等、必要な際は既設ALPSサンプルタンク（フランジ型）を使用する。
- サンプルタンク基数

既設	増設	高性能
4基	3基	3基



2. 系統構成について



- 溶接型サンプルタンクを優先使用した場合でも、既設・増設・高性能の3設備中、2設備は運用可能